

会議名	令和８年度 第２回佐久市社会教育委員会議		
期 日	令和８年６月１９日（金）		
場 所	佐久市役所南棟 ３階大会議室		
開 始	午後２時００分	閉 会	午後３時２０分
出席者	【委員】 原英正委員長、依田とく代副委員長、大塚寛美委員、 奥村繁子委員、岩井佑樹委員、中澤功委員、清水由実子委員、 小林英明委員、和光智恵子委員（欠席３名） ... 【事務局】 生涯学習課長木下、課長補佐武者、生涯学習係長玉置、 生涯学習係保科、社会教育指導員伴野・浅沼・吉澤		

１ 開 会 依田副委員長

２ 諮 問 教育長・原委員長

- ・佐久市教育振興基本計画の策定について（社会教育分野施策に関する諮問）
- ・教育長から原委員長へ諮問書の交付
- ・教育長挨拶（現行計画の満了に伴う新たな計画策定の趣旨、「学びの自走者」の育成と「多様性の包摂」の重要性、社会教育における現状課題の解決に向けた議論への期待について）

※教育長退席

３ 会議事項

（１）佐久市教育振興基本計画（骨子案）について

事務局：計画の策定に向けた骨子案の概要について説明。現段階では具体的な事業内容ではなく、計画の骨組みとなる現状課題の捉え方や、社会情勢を踏まえた方向性が合っているかをご確認いただきたい。

委員：これまで社会教育として取り組んできた「居場所づくり」等の実績を踏まえ、学校に行けない子どもたち（フリースクール等の利用者含む）への支援や関係性など、今後の方向性を具体的に見ていきたい。

委員：全体的な言葉遣いについて、「教育」という言葉が学校教育のみを指すのか、社会教育も含めた全体を指すのか分かりにくい箇所がある。また、「投資」という言葉はリターンを求める経済用語の印象があるため、教育分野での使用は検討してはどうか。

委員：本計画で重視される「多様性の包摂」や「自己実現」に関連し、能力を最大限発揮しなければならないようなニュアンスが、一部の困難を抱える層へのプレッシャーにならないか懸念がある。また、これまでの実績を踏まえジェンダーに関する視点も明確に盛り込むべきではないか。

委員：基本理念等にある「ともに」という言葉について、必ずしも皆で一緒にやらなければならないという同調圧力ではなく、「孤立しない（自立しつつ社会と関わる）」といったポジティブな意味合いが伝わるような工夫が必要である。

委員：不登校の児童生徒について、学校へ行かなくても社会と繋がれる子もいれば、そうでない子もいる。社会と繋がれず孤立してしまう子どもたちを「誰ひとり取り残さない」ための社会教育の視点や、保護者へのアプローチが重要である。

委員：一部の事業の実施状況について最新の状況への修正が必要である。また、佐久市の文化芸術の強みとして、市民参加型の活動が長期継続している点が挙げられるため、現状の分析にそうした本市ならではの特色を加筆してはどうか。

委員：こどもアンケートの結果について、学校に通えている子どもの意見が中心になり、ポジティブな結果が出やすい傾向がある。学校に行けていない子どもの意見など、見えづらい層の声をどのように汲み取っているのか。

事務局：不登校の児童生徒や保護者に対しても、別途ヒアリング等を行い、多様な意見の把握に努めている。

委 員：計画書内の誤字について修正をお願いしたい。

事務局：いただいたご意見については、庁内でもしっかりと咀嚼し、今後の「素案」の策定に向けて検討していく。

4 その他

- ・ 5月27日に開催された佐久地区社会教育委員連絡協議会総会・研修会について、感想まとめを配布。
- ・ 9月3日に塩尻市で開催される長野県社会教育研究大会において、佐久地区の発表分担が佐久市の当番となっているため、委員の皆様にご協力をお願いしたい。

5 閉 会 依田副委員長